

岡山県立津山東高等学校学校運営協議会 第2回会議 議事録

令和5年12月14日(木) 15:00~16:30

津山東高校会議室

○出席者 委員10名(校長含む)中8名が出席 学校側出席者:教頭2名・事務部長

〔協議の概要〕

学校側出席者から中間期までの学校運営について報告・中間期の評価について

〔協議の概要〕

(委員) 東雲祭では、今年度から保護者の方に公開したのか。

(学校) 昨年度は体育の部午後のみ、3年生の保護者に限定して公開した。今年は3日間全て、保護者・家族の方限定ではあるが公開した。

(委員) 今の生徒は外部への公開に対して経験がないと思うが、何か苦労されたことがあるか。

(学校) 生徒会の準備が大変だったと思う。対応方法として、事前登録をお願いした。更に指定の場所で受付し、証明用の紙製の腕輪を作るなど、生徒会の顧問や執行部の生徒を中心に準備を行った。

(学校) 今回、色紙を使用した腕輪を付けることで入場制限を設ける工夫は、アイディアを出し課題解決という視点で勉強になっていると考えている。ピンチをチャンスに変える力も育成できていると思う。今後、こういう新しいものを考えていくことに繋がればと感じる。

(委員) 東高校では校外での学習に魅力的なものが多いが、決まった生徒になっているのではないか。行学の取り組みには参加するが、他の行事には参加できない生徒もいるので、それらの生徒に対する紹介方法など工夫していくとより良くなるのではないか。

(学校) ボランティアに参加していない生徒には、クラスをまとめて参加させることもある。普通科では、2年生が中心となるが、柱となる行学があるので、その延長で関連する行事に参加する生徒、更には、行学の活動に加えて参加希望の生徒を募る形になっている。

(委員) 将来の進路の参考にもなる。重要性などを繰り返し教えていただけるとありがたい。

(委員) 進路実現へ向けて、目標をもって取り組むことができる生徒が80%以上と設定され、現状は70.3%とある。東高校に入学し、自分の夢に向けて取り組める環境が作られている。

(学校) 1年団では、3者面談で保護者に向けて生徒がプレゼンする取り組みを行った。学年独自の内容ではあるが、進路目標や努力目標などプレゼンする取組が印象に残っている。全学年に、浸透していくと良い事例になっていくと考える。

(委員) マルイのレシピコンクール等にご協力いただき感謝している。食育担当から、パワーポイントを使ったプレゼン発表も素晴らしいものだ確認をさせていただいている。作成などに、先生方がある程度関わって進められているのか。

(学校) プレゼンは生徒のみで作ることができる。言葉の使い方はアドバイスをする部分もあると思うが、内容的には授業での調べ学習や生徒同士で発表する場面でもプレゼンテーションソフトを活用しているので、かなり技術は向上している。

(委員) 企画の段階でも、津山産小麦の活用など、地元食材を色々調べられており、自主的にされていると担当者から聞いていたので感心している。

- (委員) 行学では、つなぎの部分でお手伝いさせていただいた。生徒の皆さんは地域の皆さんと話し合うことで、思っていた地域の課題や現状が、地域の皆さんが進んでいることに気づき、やれることが見えてきているので、こういう機会が持てることは有難い。何より、企画を実施した生徒の成長を見ると、大きな成果を感じることができている。
- (学校) 報道でも東高のグループが関わる地域活動の内容が新聞で取り上げられていた。
- (委員) 高校生の視点で地域の課題解決のための事業やイベントを実施している。このような視点が地域側にもあるので、両方にとって効果的だと思っている。計画通りできなかったことや改善点などを振り返ることを生徒の皆さんに伝えている。
- (委員) コロナの時期にはコミュニケーションを取りづらくなった。ウィズコロナになってもスクールソーシャルワーカーを入れていると説明があったが、メンタル面に関する相談はコロナ前と比較して増えているのか、それとも減っているのか。
- (学校) 昨年よりスクールカウンセラーに相談している生徒は減少しているが、悩みを持っている生徒は増加傾向にあると感じている。また、他校でも増えていると聞いている。10年前と比べれば圧倒的に増加していると思う。この増加傾向はコロナが原因なのか時代の変化なのか分からないが、他校の教員と情報共有するとコロナの影響もあると感じている。
- (委員) 企業も多い。人事担当と話すキャリアアップや人材育成に重きを置くが、環境の変化が原因かもしれないがメンタル系の課題が非常に多い。どの様な関りが効果的なのか学校とも情報交換できたらと思う。
- (委員) 学習マネジメント調査について、津山市の小学校では学習時間は多いが、中学校になると減少する。高校生は1年生で1日150分の家庭学習をするのはすごいと感じる。どの様な勉強をしているのか教えてもらいたい。
- (学校) 基本的には課題・予習である。また、クロームブックを持つようになり、ウェブ上の動画で予習するなど工夫している。
- (委員) どの高校もこれくらいの時間数なのか。
- (学校) 普通科であれば一般的な時間である。看護科は国家試験に向けての学習があるので同様の時間である。食物調理科は実技の部門があるので時間的には少ないと思う。受験生では180分が目標だが、受験に向かうと足らなくなる。1年生の早い段階で、特に普通科では、目標達成にはこのぐらゐの努力が必要なことを教えることが大切だと考えている。
- (委員) 学習時間に入れていい時間が、たくさんあるのであれば、入れようと指導した方がよい。学習時間が多いことで自己肯定感も高まるし、指導すれば増加すると思うので、確認をすればよい。
- (学校) 専門学科の高校では、入学時にはかなりレベルが高いが、入学後、専門学科の授業は一生懸命やるが5教科の学力は下がっており家庭学習時間もほとんどないことが課題となっている。東高校の場合、看護科は国家試験が目標であるため頑張っている。食物調理科も他の専門高校の実態と比べたら、よく頑張っていると思っている。普通科と併設している部分がうまく噛み合っていると見ている。